

## 張愛玲文学作品における上海語研究 (5)

—『十八春』(『半生縁』)の動詞を中心に—

吉田陽子

### 『十八春』の動詞について (第 15 章～第 18 章 (最終章))

章-頁-行	下線の語彙—上海語の動詞 ローマ字—上海語の発音	(文章の翻訳)、〈共通語〉
15 章-284 頁 -5～7 行	顾太太 <u>做</u> 媳妇一直 <u>做到</u> 五六十 岁,平时背地里并不是没有怨言, 但是婆媳俩一向在一起 <u>苦熬苦</u> <u>过</u> ,倒也不无一种老来伴的感觉。 做(zū) 苦熬苦过(kūgnáokūgū)	(顧夫人は嫁いはずっと嫁として五十歳、六十 歳を迎えた、普段陰で不平を言わないわけでも ないが、姑嫁は二人共々にずっと苦難の歳月 に耐えながら暮らしてきたので、年取ってから かえって連れ合いのような感じだった。) 做:～になる。(「 <u>做</u> 媳妇」は《 <u>做</u> 新妇 zūxìnvú」 にも使われている。)做媳妇=〈当媳妇〉 (《 <u>做到</u> zūdào》は結果補語を附加した用法。) 做到=〈当到〉 苦熬苦过:苦難の歳月に耐えながら暮らすこ と。
15-285-10 ～ 12	顾太太一直主意不定,想到上海 去,这时候路上也难走,她孤身 一个人,又上了年纪,沿途又没 有人 <u>照应</u> 。 照应(zāoyìn)	(顧夫人はずっと考えを決めず、上海へ行くとし ても道中は混乱しており、一人ぼっちで、そ の上年を取り、旅先で面倒を見てくれる人も居 ない。) 照应:面倒を見る。照应=〈照顾〉
15-285-20、21	杰民现在在银行 <u>做事</u> ,他大学只 读了一年,就进了这另银行。 做事(zūzhí)	(杰民は今銀行に勤務しており、大学に一年だ け通い、すぐこの銀行に就職した。) 做事:仕事をする;家事などをする。(前掲 「2-14-2」に同じ。)做事=〈工作〉
15-286-14、15	杰民却欠了欠身,从裤袋里把顾 太太那封信 <u>摸</u> 出来,递给她看。 摸(mōk)	(杰民は少し腰を上げて敬意を払うとズボンの ポケットから顧夫人からの手紙を取り出して、彼 女に渡して見せた。) 摸:取り出す。(《 <u>摸</u> 出来 mōkcekláe》は方向補 語を附加した用法。)摸出来=〈掏出来〉
15-296-13 ～ 15	曼楨一下子 <u>发</u> 糊涂了,见有一辆 公共汽车轰隆轰隆开了过来,前 面就有一个站头,她就也向前跑 去,想上那公共汽车。 发(fak)	(曼楨は少しぼうっとしたが、一台のバスがビュ ーンと走ってきて、前方にはバス停があるのを 眼すると、彼女も前へ駆けていき、そのバスに 乗ろうとした。) 发:(ある感情が)起る。发糊涂=〈发呆〉
15-290-9～11	以后的事情她都不大清楚了,只 听见“吱呦”一声 <u>拖</u> 长的尖叫,	(その後の事は彼女はあまり覚えておらず、た だ、「キィ-」という尖った金属音が耳に入っただ

	倒是煞住了车，然后就听见那开车的破口大骂。 拖长(tùzhǎn) 尖叫(jìjiāo) 煞(sak)	けだった。車のブレーキはかかったが、すぐドライバーから激しい罵る声が聞こえてきた。) 拖长:長く伸ばす。拖长=〈拉长〉 尖叫:尖った音を発する。 煞:ブレーキをかける。「煞住」は《煞牢(sa kláo)》にも使われており、結果補語を附加した用法。) 煞住=〈刹住〉
15-291-2~4	他走到床前,坐下来脱鞋换上拖鞋,因顺口问了一声:“怎么一个人躺在这儿? 唔?”说着,便把手搁在她膝盖上捏了一捏。 坐(zhú) 搁(gok) 捏(niǎk)	(彼がベッドの前へと進み、座って靴を脱ぎスリッパに履き替えたので、ついでに「どうして一人で寝ているの? ねえ?」と聞きながら、手を彼女の膝頭に置き、ちょっとつねった。) 坐:座る。(前掲「11-186-5、6」に同じ。《坐下来 zhúhhóláe》は方向補語を附加した用法。) 搁:置く。(前掲「9-139-14」に同じ。「搁在」は《搁勒 goklèk》にも使われており、結果補語を附加した用法。) 搁在=〈放在〉 捏:つねる。「捏了一捏」は《捏勒一捏 niǎklèk yìkniǎk》にも使われており、動詞の過去形の重ね型の用法。) 捏了一捏=〈掐了一掐〉
15-292-7、8	……但是有钱的人大都怕事,谁原意出面替日本人做事,日本人万一走了,他们这地方却是根深蒂固,跑不了的。 出面(cemí) 做事(zūzhí)	(…中略…しかし金持ちは殆ど事を起こしたくなく、誰が表に立って日本人の為に仕事をしたいなどという人がいようか。日本人が撤退してしまっても、その人たちは地元で根を張って生きているので、そこから逃れられないのだから。) 出面:顔を出す。表に立つ。出面=〈出头露面〉 做事:仕事をする;家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。) 做事=〈工作〉
15-292-13	顾希尧的老妻收了尸回来,哭得天昏地暗。 收尸(sòesi) 哭(kok)	(顧希堯の古女房が死体を引き取って帰宅し、身も世もなく泣いた。) 收尸:死体を引き取る。收尸=〈收尸体〉 哭:泣く。(《哭得天昏地暗 kokdekti huèn dhíēu》は様態補語を附加した用法。) 哭得天昏地暗=〈哭得死去活来〉
15-293-1~5	琬珠在旁边插嘴说,她也在那里想出去做事,赚几个钱来贴补家用,伟民便道:“在现在的上海,找事情真难,倒是发财容易,所以有那么些暴发户。”陶太太的意思,女儿找事倒还在其次,即使找到事又怎样,又救不了穷。 做事(zūzhí) 赚(zhái)	(琬珠は隣りで口を挟んで、自分も外で仕事をし、幾ばくかのお金を稼いで家計の足しにしたいと言ったので、偉民はすぐ、「今の上海では仕事を探すのはなかなか難しいが、なのに金持ちになるのは容易なので、こんなに沢山の成金が居るわけだ」と言った。陶夫人の意図は、娘の仕事探しは二の次であり、たとえ仕事を見つけたとしても何になるだろうか、貧乏を救える訳でもない。

	贴补(tikbū) 找事(zāozhí) 救(jiōe)	做事: 仕事をする; 家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。) 做事 = 〈工作〉 赚: 稼ぐ。「赚几个钱」は《赚几个铜钿 zháejīghěkdhóndhí》にも使われている。 赚几个钱 = 〈挣几个钱〉 贴补: 補助する。贴补 = 〈补贴〉 找事: 仕事を探す。(前掲「13-229-7、8」に同じ。) 找事 = 〈找工作〉 救: 救う。《救穷 jiōejhión》: 貧困を救う。「救不了穷」は《救勿了穷 jiōevěkliáojhión》にも使われており、可能補語を附加した用法。 救不了穷 = 〈无法拯救贫穷〉
15-293-22~ 15-294-1	……(顾太太)便皱眉问道: “你身体好吧? 咳, 你都是从前做事, 从早上忙到晚上, 把身体累伤了! 那时候年纪青撑得住, 年纪大一点就觉得了。” 曼桢也不去和她辩驳。提起做事, 那也是一个痛疮, 她本来和鸿才预先说好的, 婚后还要继续做事, 那时候鸿才当然百依百顺, 但是她在外面做事他总觉得不放心。 做事(zūzhí) 撑(càn) 辩驳(bhíbok)	(…中略… 〈顧夫人は) 眉をしかめて、「体は大丈夫ですか? ああ、昔、お前は仕事をしていたので、朝から晩まで忙しくて、ひどく体を疲れさせてしまった。その時は若かったから耐えられたが、ちょっと年が取ればこたえるものだ」と言った。曼桢は母に反論しなかった。仕事について言えば古傷に触れることにもなる。彼女は元々事前に鴻才に、結婚後も仕事を続けたいと話をつけていた。その時鴻才は何でも言いなりになってはいたが、しかし彼女が外で仕事をするのに対していつも安心できない様だった。)         做事: 仕事をする; 家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。) 做事 = 〈工作〉 撑: 支える。我慢する。(前掲「11-18-5、6」に同じ。「撑得住」は《撑得牢 cāndekláo》にも使われており、可能補語を附加した用法。 撑得住 = 支撑得住 辩驳: 反論する。辩驳 = 争论
15-295-3~6	顾太太道: “刚才在你弟弟家, 你弟媳妇在那里说, 要想找个事, 也好贴补家用。他们说是钱不够用, 那些话全是说给我听的……— —想想养了儿子真是没有意思。” 找事(zāozhí) 贴补(tikbū) 养(yhián)	(顧夫人は、「さっき、お前の弟の家に居た時、弟の嫁がそこで言うのには、仕事を見つけて家計の足しにしたいと。彼ら夫婦が生活費が足りないということまでも、私に聞かせようってんだから…省略…息子を育てても全くつまらないものだと思うわ」と言った。)         找事: 仕事を探す。(前掲「13-229-7、8」に同じ。) 找事 = 〈找工作〉 贴补: 補助する。(前掲「15-293-1~5」に同じ。) 贴补 = 〈补贴〉 养: 育てる。养儿子 = 〈培养儿子〉
15-294-17、18	楼上床铺已经预备好了, 曼桢便	(二階の寢床はすでに用意ができていたので、

	陪她上楼去。 预备(yhúbhé)	曼楨は母が二階へ上がって行くのに付き添っていた。 预备:用意する。(前掲「10-161-26」～「10-162-1」に同じ。《预备好 yhúbhéhào》は結果補語を附加した用法。) 预备好=〈准备好〉
15-295-18 ~ 24	顾太太低声道：“……我又想想这侄甥媳妇是向来不来往的，人家眼睛里没有我这穷表舅母，我倒也犯不上凑上去。……” 犯(váe) 凑(cōe)	(顧夫人は低い声で、「…中略…また考えてみれば、あの甥嫁とはこれまでお付き合いをしたことがなく、人様には私のような貧乏なおばは目にも入らず、私は取り入るまでもないんだ。)」 犯不上:～するまでもない。「犯不上」は前掲「9-150-17」の「犯不着」と同じ意味であり、《犯勿上 váevěkzhán》にも使われており、可能補語を附加した用法。)犯不上=〈不值得〉 凑:取り入る。《凑上去 cōezhánqī》は方向補語を附加した用法。)凑上去=〈去巴结〉
15-297-13, 14	那女佣便在外面接口道：“外老太太来了，在楼上呢。” 接口(jikkōe)	(女中は外で、「大おばあさんがいらっしやいました。二階にいらっしやいます」と取り次いだ。) 接口:他人の言葉を受けて話す。(前掲「3-44-24」に同じ。接口=〈接嘴〉)
15-297-26~ 15-298-2	女佣来请他们吃晚饭，免得顾太太还要上楼下楼，也给她预备了稀饭，…… 预备(yhúbhé)	(女中は彼女たちにご飯を召し上がる様に呼びに来て、顧夫人にも階段の上がり下がり省くように、お粥を用意した。…中略…) 预备:用意する。(前掲「11-191-6~8」に同じ。)预备=〈准备〉
15-298-4~6	三个人围着一张方桌坐着，就象有一片乌云沉沉地笼罩在头上，好像头顶上撑着一把伞似的。 撑(càn)	(三人は四角いテーブルを囲んで座っているが、まるで一面の雲がどっしりと頭の上に覆われており、頭のとっぺんに傘を差している様だった。) 撑:(傘を)差す。(前掲「1-9-7」に同じ。「撑着」は《撑勒 cànlek》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)撑着=〈打着〉
15-298-7, 8	鸿才突然说道：“这烧饭的简直不行。烧的这菜象什么东西！” 烧饭(sàováe) 烧菜(sàocāe)	(鴻才は突然、「このご飯を作ったやつは全くなっていない。作ったお菜は食べられるものではない」と言った。) 烧饭:ご飯を炊く。烧饭=〈做饭〉 烧菜:料理を作る。烧菜=〈做菜〉
15-298-9, 10	有一碗鲫鱼汤放在较远的地方，荣宝揼不着，站起身来伸长了手臂去揼，却被鸿才伸过筷子拦腰打了一下，…… 揼(ji)	(お椀一杯の鮎スープがちよっと離れている処に置いてある為、榮宝がそれを挟めず、椅子から立って手を伸ばして挟もうとしたら、鴻才に箸でちよっと敲かれた。) 揼:(箸で)はさむ;取る。(前掲「5-81-1」に同じ。「揼不着」は《揼勿着 jivěkzhák》にも使われ

		ており、可能補語を附加した用法。) 搵不着 = 〈夹不着〉
15-298-15 ~ 18	荣宝对于这些也习惯了，他一面啜泣着一面拾起了筷子，又端起饭碗，扒了两口饭。却有一大块鱼，鱼肚子上的，没有什么刺的，送到他碗里来，是曼楨搵给他的。扒(bhó) 搵(jì)	(荣宝はこれらのことに慣れている様で、啜り泣きながら箸を拾い、もう一度お碗を持ってご飯二口をかきこんだ。なんと大きな魚の身を、しかも魚のお腹の部位であまり骨のないものが坊やお碗の中に置いてあった。曼楨が取ってくれたのだ。) 扒:かき込む。(前掲「8-118-8」に同じ。《扒飯 bhóváe》:ご飯をかき込む。) 扒飯 = 〈匆忙吃饭〉 搵:(箸で)はさむ;取る。(前掲「5-81-1」に同じ。「搵给」は《搵拨 jìbek》にも使われており、結果補語を附加した用法。)搵给 = 〈夹给〉
15-298-22 ~ 15-299-1	他仰起了头，举起饭碗，几乎把一只碗覆在脸上，不耐烦地连连扒着饭。……他有好几个习惯性的小动作，譬如他擤鼻涕总用一只手指揪住鼻翅，用另一只鼻孔往地下一哼，短短的哼那么一声。扒(bhó) 擤(hhēn) 揪(qīn)	(彼は顔を上に向け、お碗を持ち上げて、お碗を顔全体に覆った位で、面倒くさそうにご飯をかき込んでいた。…省略…彼には幾つかの習慣的なしぐさがある。例えば、鼻水をかむ時に一本の指で小鼻を押して、もう一方の鼻の穴を使って鼻水を「ブシュ」という音を出して地面に出す。) 扒:かき込む。(前掲「8-118-8」に同じ。扒飯 bhóváe):ご飯をかき込んで食べる。「扒着」は《扒勒 bhólěk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)扒着飯 = 〈匆忙吃着飯〉 擤:鼻をかむ。(前掲「4-68-5」に同じ。) 揪:押さえつける。(前掲「12-207-23~25」に同じ。「揪住」は《揪牢 qīnláo》にも使われており、結果補語を附加した用法。)揪住 = 〈按住〉
15-299-1~4	倒是曼楨现在养成了一种很不好的习惯，就是她每次看见他这种小动作，她脸上马上起了一种憎恶的痉挛，她可以觉得自己眼睛下面的肌肉往上一牵一皱。一牵一皱(yìkqìyìkzōe)	(たとえ曼楨がいま悪い癖を身に付けていたとしても、彼のこのようなしぐさを見る度ごとに、顔にすぐ忌み嫌うような引きつけを起こした。彼女は、自分の目の下の筋肉が上へ引っ張られたり、ひきつけられたりしているのを感じることができた。) 一牵一皱:引っ張られたり、引きつけられたりする。一牵一皱 = 〈抽抽搐搐〉
15-299-8、9	……但是也可以知道，他们两个人怄气不是一朝一夕的事。怄气(ōeqī)	(…中略…しかし彼ら二人がお互いに腹を立てることは一朝一夕に起ったものではないことも分かる。) 怄气:腹を立てる。(前掲「3-35-10」に同じ。) 怄气 = 〈赌气〉
15-299-23、24	……曼楨说应当找个医生去验	(…中略…曼楨はある医者に検査してもらわな

	验。 验(ní)	ければならないと言った。) 验:(身体)検査をする。(《验验 ní ní》は動詞の重ね型の用法。) 验验=〈検査検査〉
15-300-4、5	曼桢觉得奇怪, 心里想他或者是背地里在外面载客赚外快。 赚(zhái)	(曼桢は不思議に思い、ひょっとしたら彼は人の見ていないところで、外で客を載せ正規外の収入を得ているのではないかと思っていた。) 赚:金を儲ける。(《赚外快 zháeghákūā》:正規外の収入を得る。) 赚外快=〈捞外快〉
15-300-24	曼桢倒也不想当场戳穿他。 戳穿(cokcèu)	(曼桢はその場で彼を暴きたくなかった。) 戳穿:真相を暴露する。戳穿=〈点穿〉
15-301-2、3	鸿才在镜框里看见了, 拔步就走。 拔(bak)	(鸿才がガラスに写った姿を眼にしたので、さっと出て行った。) 拔:さっと歩き出す。拔步=〈拔腿〉
15-301-22 ~ 24	鸿才又道:“他们晓得我认识这魏医生, 一定要叫我带她来看看, 这孩子闹肚子。……” 晓得(xiāodek)	(鸿才はまだ、「彼らは私が魏医師と顔見知りだと知っていたので、どうしても彼女を連れて来て診てもらってほし、この子は下痢なので。…」と言った。) 晓得:知る。(前掲「7-101-25」に同じ。) 晓得=〈知道〉
15-303-1、2	有熟人介绍总好些, 不至于太敲竹杠。 敲竹杠(kàozokgàn)	(紹介してもらえる知人が居れば幾ばくか良いのだ。高値を吹っかけてぼられすぎるほどのことがない。) 敲竹杠:高値を吹っかけぼる。(前掲「1-8-11、12」に同じ。) 敲竹杠=〈敲诈〉
15-303-22 ~ 24	顾太太在路上就想和曼桢谈论刚才那女人的事, 只是碍着春元, 怕给他听见了不好。曼桢又叫春元弯到一个药房里, 照医生开的方子买了两样药, 然后回家。 碍(gháe) 弯(wàe)	(顧夫人は途中で曼桢に先程見かけたあの女性のことを話したかったが、春元に邪魔されて、彼の耳に入れば良くないと心配していた。曼桢は春元にある薬局に立ち寄ってもらい、医師の処方箋により二種類の薬を買ってから家に戻った。) 碍:邪魔になる。(《碍着 gháezhāk》は結果補語を附加した用法。) 碍着=〈妨碍到〉 弯:立ち寄る。(《弯到 wàedāo》は結果補語を附加した用法。) 弯到=〈拐到〉
15-304-8、9	顾太太叹道:“……他的脾气你还不知道吗? 你也得稍微笼络着他一点。” 笼络(lónlök)	(顧夫人は溜息をついて、「…中略…彼の性格は知らないはずもないでしょう。少し彼をまるめこむ必要があるでしょう」と言った。) 笼络:丸め込む。(前掲「7-110-1」に同じ。「笼络着」は《笼络勒 lónlökkläk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。) 笼络着=〈收拢着〉
15-304-17 ~ 22	她沉默片刻, 遂又开口说道:“……我也不晓得你肚子里打什	(彼女は少し黙ってからすぐまた口を切り、「…中略…どんな対策を練っているかが分からない

	么主意。” 晓得(xiāodek)	けど」と言った。) 晓得:知る。(前掲「7-101-25」に同じ。「不晓得」は《勿晓得 vēkxiāodek》にも使われている。)不晓得=〈不知道〉
15-304-25、26	曼楨把眼珠一转,便微笑道:“是真的,我也知道妈嫌烦。……” 嫌(yhí)	(曼楨は目をぐるっと回してすぐ微笑んで、「本当です。私もお母さんがうるさがると思つて」と言った。) 嫌:嫌う;嫌がる。(前掲「11-184-18~20」に同じ。《嫌烦 yhíváe》:うるさがる。)嫌烦=〈怕烦〉
15-305-1、2	顾太太万想不到她女儿会下逐客令,倒怔了一怔,便道:“那倒也好。” 下(hhó)	(顧夫人は自分の娘に追い出されるとは夢にも思わなかったので、ぼかんとして、「それでも良い」と言った。) 下:(命令を)出す。(《下逐客令(hhózhókkék lín》:客を追い払う。前掲「14-246-16~18」の「逐客」と同じ意味。)下逐客令=〈赶客人走〉
15-205-4、5	顾太太忖量了一会,倒又有点不放心起来,便又叮嘱道:“我可憋不住,还又要说啊:……” 憋(bík)	(顧夫人は暫く考えていたが、かえって些か心配になって来た為、また「腹に溜めることができないからやはり言わなければならない…中略…」と言いふくめた。) 憋:腹に溜める。我慢する。(前掲「11-188-4、5」に同じ。「憋不住」は《憋勿牢 bīkvèkláo》にも使われており、可能補語を附加した用法。) 憋不住=〈忍不住〉
15-306-18、19	他心里就想着,她刚才未必疑心到什么,即使有些疑心,大概也预备含混过去,不打算揭穿了。 含混(hhéuhhuén) 揭穿(jīkcèu)	(彼は、彼女はさつき必ずしも何かを嗅ぎ当てたわけでもない、たとえ幾ばくかの疑いがあつても曖昧にするつもりで、暴くつもりはないと考えていた。) ここでの《预备 yhúbhé》は助動詞の用法。 含混:曖昧である。(《含混过去 hhéuhhuéngū qī》は方向補語を附加した用法。) 含混过去=〈混过去〉 揭穿:暴く;暴露する。揭穿=〈拆穿〉
15-306-24 ~ 26	曼楨便对女佣说了一声:“春元要是回来吃饭,你叫他来,我有话关照他。我要叫他去买点东西。” 关照(guàezāo)	(曼楨は女中に、「もし春元がご飯を食べに帰つて来たら彼に来るように言っておくれ、彼に言い付けたいことがあるのさ。また買ってもらいたいものがあるともね」と一言かけた。) 关照:言い付ける。(前掲「12-204-23、24」に同じ。)关照=〈嘱咐〉
15-307-24 ~ 26	那何剑如和她拆开的时候,挽出鸿才来替他讲条件,鸿才因此就和她认识了,终至于同居。 拆开(cakkàe) 挽(wāe)	(何劍如という人は彼女と別れる時に鴻才を引っ張り出して彼の為に条件を話し合つてもらつた。その為鴻才は彼女と知り合った揚句、ついに同居してしまつた。) 拆:離す。《拆开 cakkàe》は方向補語を附加し

		た用法。)拆开 = 〈分手〉 挽出: 引っ張り出す。(《挽出 wāncèk》は方向補語を附加した用法。)挽出 = 〈推出〉
15-309-24 ~ 26	她忽然想起蔡金芳来, 把孩子寄存在他们那里, <u>照理</u> 是再妥当也没有了。 照理(zhāolǐ)	(彼女は突然金芳の事を思い出すと、子どもを彼らの所に預けることは、理屈から言えば最も適切な方法なのだ。) 照理: 理屈から言えば; 道理上。照理 = 〈按理〉
16 章-310 頁 -4、5 行	分家这个话, 酝酿了一个时期, 终于实行了。把皮货店也 <u>盘</u> 掉了。 盘(bhéu)	(分家する事は、時間をかけて相談を重ね、ようやく実行に移った。毛皮店も譲り渡してしまった。) 盘: (店を) 譲り渡す。(「盘掉」は《盘脱 bhéu tek》にも使われており、結果補語を附加した用法。) 盘掉 = 〈转让掉〉
16-310-12、13	沈太太忍不住有的时候就要插身他们之间, 和翠芝 <u>怄</u> 气。 怄气(ōuqì)	(沈夫人は我慢できず、時々息子夫婦の間に割り込んで、翠芝にむしゃくしゃしていた。) 怄气: 腹を立てる; むしゃくしゃする。(前掲「3-35-10」に同じ。) 怄气 = 〈赌气〉
16-310-15 ~ 17	她一直想回南京去, 又怕被大少奶奶 <u>汕</u> 笑, 笑她那样帮着二房里, 结果人家自己去 <u>组织</u> 小家庭了, 她还是被人家挤走了。 组织(zūzék)	(彼女はずっと南京に戻りたかったが、長男の嫁にあざ笑われるのを恐れていた。あんなにも次男に援助したのに、結局次男は自分の家庭を築くので、彼女はやはり締め出された、と笑われることである。) 组织: 築く。(前掲「10-166-22、23」に同じ。) 组织 = 〈建立〉
16-311-7~9	翠芝却 <u>别</u> 过头去, 没好气地说道: “ <u>瞎猜</u> 些什么呢, 一会儿他来了不就知道了!” 别(bhīk) 瞎猜(hākàe)	(翠芝は頭の向きを変えぶっきらぼうに、「何をでたらめに推測しているの。暫くして彼がお越しになれば分かるのではないの?」と言った。) 别: (方向を) 変える。(前掲「10-168-11、12」に同じ。《别过头去 bhīkgūdhóeqī》は方向補語を附加した用法。) 别过头去 = 〈转过头去〉 瞎猜: でたらめに推測する。瞎猜 = 〈乱猜〉
16-311-9~13	世钧今天是太高兴了, 她那不耐烦的神气他竟然完全没有注意到, 依然笑嘻嘻地说道: “他要是还没结婚我们来给他 <u>做</u> 个 <u>媒</u> 。”翠芝一听见这话, 她真火了, 但是也只能忍着冷笑道: “叔惠他那么大岁数的人, 他要是结婚, 自己还不会去找, 还要你给他 <u>做</u> 媒!” 做媒(zūmé)	(世鈞は今日とても喜んでいるので、妻のうんざりした表情に全く気がつかず、相変わらずにここにきて、「もし彼がまだ結婚していなかったら私たちは仲人をしましょう」と言った。翠芝は聞いてから本当に怒り出したが、しかし我慢するしか方法なく、せせら笑いをしながら、「叔恵はこんな年になったので、結婚したいなら相手を探すことができるし、仲人をする必要があるでしょうか」と言った。) 做媒: 仲人をする。(前掲「16-311-9~13」に同じ。) 做媒 = 〈当红娘〉
16-312-2~4	裕舫依旧在银行里做事, 银行里	(裕舫は今まで通り銀行に勤めている。銀行の



	大家都穿上了人民装，裕舫也做了一套，…… 做事(zūzhí)	職員はみんな人民服を着ており、裕舫も上一揃いを作った。…中略… 做事：仕事をする；家事などをする（前掲「2-14-2」に同じ。）做事＝〈工作〉
16-312-16、17	他的行李里面有一只帆布袋，正挂在他头上，一路挨擦着，把后脑勺的头发都揉乱了，翘起一撮子。 挨擦(àcāk) 翘(qiāo)	(彼の旅用の荷物にはズック製のトートバッグがあり、丁度彼の頭に掛けると、道中順次擦り付けられて、後頭部の髪は乱れてしまい、頭髮の一部が跳ね上がっている。) 挨擦：順番に擦り付ける。「挨擦着」は《挨擦勒 àcāk lèk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。) 挨擦着＝〈輪擦着〉 翘起：跳ね上がる。《翘起 qiāo qǐ》は方向補語を附加した用法。) 翘起＝〈竖起〉
16-314-12	二贝带笑嚷道：“妈来看轧米呵！” 轧(gǎ)	(二貝は笑いながら、「母さん、脱穀するのを見に来てね!」と言った。) 轧：(機械で)脱穀する。《轧米 gǎ mǐ》:米を脱穀する。) 轧米＝〈脱谷〉
16-314-14 ~ 16	翠芝道：“你反正净捧她，弄得我也没法管她了，净叫我做恶人——所以两个孩子都喜欢你不喜欢我！” 捧(pōn) 做(zū)	(翠芝は「あなたはどうぞせあの子にへつらってばかりだと、しつけができなくなり、結果私は悪者呼ばわりされてしまう——だから、二人の子どもともあなたのことが好きで、私のことが好きではない」と言った。) 捧：へつらう。捧＝〈表扬〉 做：～になる。(前掲「11-172-18～20」に同じ。) 《做恶人 zū' èr rén》:悪人になる。) 做恶人＝〈当恶人〉
16-314-22 ~ 24	家里乱哄哄的，一只狗便兴兴头头地跟在人背后穿出穿进，刚打了蜡的地板，好几次滑的人差一点跌交。 穿出穿进(cèucek cèujīn) 跌交(dīkgào)	(家の中はがやがやと騒がしく、犬が一匹とても嬉しそうに人の後について出たり入ったりし、ワックスがかけられたばかりの床に、何度も足を滑らせた人は、危うく転んでしまうほどだった。) 穿出穿进：出たり入ったりと走り回る。 穿出穿进＝〈跑出跑进〉 跌交：転ぶ。跌交＝〈摔跤〉
16-315-7~9	他把那只狗拴在箱子祥上，正在那里打结，那狗便不老实起来，去咬啮地下的书本，把世钧历年订阅的工程杂志咬得七零八落。 打结(dānjīk) 咬(gnáo)	(彼はその犬を箱の引っ掛けに繋ごうとし、結び目を作っている時、犬が言うことを聞かず、地面にある本をかじり始め、世鈞の数年来購読していた土木雑誌をちりちりばらばらになるほど噛んでいた。) 打结：結び目をつくる。打结＝〈系结〉 咬：噛む。 《咬得七零八落 gnádek qīk línbāklók》は様態補語を附加した用法。) 咬得七零八落＝〈啃得非常零乱〉

16-316-7	<p>当下她一句话也没说，<u>转过身来</u>就走了。</p> <p>转过身来(zēugūsēnlái)</p>	<p>(彼女はすぐに一言も言わず、体の向きを変えて行ってしまった。)</p> <p>转:(体の向きを)変える。(前掲「11-173-23、24」に同じ。《转过身来 zēugūsēnlái》は方向補語を附加した用法。)</p> <p>转过身来=〈别过身来〉</p>
<p>祥 16-316-18 ~20</p>	<p>还剩下一些房产，也在陆续变卖中，<u>贴补</u>在家用项下用掉了，每月靠世钧在洋行里那点呆薪水，是决不够用的。</p> <p>贴补(tìkbū)</p>	<p>(まだ幾ばくの不動産が残っており、次々に売り払って換金しているところではあるが、家計を補う為使ってしまうので、毎月、世鈞の銀行で稼ぐ少しばかりの給料を当てにするだけでは絶対足りないのだ。)</p> <p>《呆薪水 gháexìnsī》:決まった給与。</p> <p>贴补:補助する。(前掲「15-293-1~5」に同じ。)贴补=〈补贴〉</p>
16-316-22、23	<p>翠芝把大扫除的工作只做了一半，家里搅得家翻宅乱，她自己倒又<u>丢</u>下来跑出去了。</p> <p>搅(gháo)</p> <p>丢(diè)</p>	<p>(翠芝は大掃除を半分しかやっていた為、家中はひっくり返したようになったが、彼女本人はほったらかして出かけて行った。)</p> <p>搅:かき乱す。(《搅得家翻宅乱 gháodekjì fàzhèkléu》は様態補語を附加した用法。)</p> <p>搅得家翻宅乱=〈搞得翻箱倒柜〉</p> <p>丢:ほったらかす。(「丢下来」は《丢下来 dōk hhóláe》にも使われており、方向補語を附加した用法。)丢下来=〈放下来〉</p>
<p>16-316-24 ~ 16-317-1</p>	<p>世钧忍不住和女佣说：“李妈，你快把家具摆摆好，一会儿客要来了。”但是佣人全知道，世钧说的话是不能作准的，一会翠芝回来了，一定认为不满意，仍旧要重新布置过的。李妈便道：“还是等少奶奶回来再<u>摆</u>吧。”</p> <p>摆(bā)</p> <p>作准(zòkzēn)</p>	<p>(世鈞は我慢できず、女中に、「李さん、早く家具をきちんと並べて置いて、暫くしたらお客さんが来ます」と言った。しかし、使用人は、世鈞の話は当てにならないので、しばらくして翠芝が帰って来たら、きっと気に入らず、やはりもう一度並び換えをさせられるに違いない、と考えていた。すると李ばあやは「やはり奥様が戻られてから並べましょう」と言った。)</p> <p>摆:並べて置く。(《摆好 bāhāo》は結果補語を附加した用法。)摆好=〈放好〉</p> <p>作准:当てになる。作准=〈作数〉</p>
16-317-4~9	<p>翠芝把东西放在桌上，笑道：“……只有那家的顶好了，叫佣人买又不行，非得自己去<u>拣</u>。”……世钧笑道：“我怎么没说过？我每次说，你总是说：“非得跑到抛球场去，非得要自己去<u>拣</u>。结果从来也没吃着过？”</p> <p>拣(gāe)</p>	<p>(翠芝は品物を机の上に置いてから、笑って、「…中略…そのお店の物だけがとても良いので、使用人に買い物させてはだめ。自分で選びに行かなくては。」と言った。…中略…世鈞は笑って、「どうして僕が言っていないと言うの。言う度に、君はいつも“抛球場に行って自分で選ばなければならぬから”と言っていたが、結局一度も食べさせて貰えなかった」と言った。)</p>

		<p>拣: 選ぶ。(前掲「2-22-25」に同じ。《去拣 qīgāe》は連動文の用法。) 去拣 = 〈去挑选〉</p>
16-317-13、14	<p>……(翠芝)便叫道：“嗷呀，怎么这房间里还是乱七八糟的？你反正什么事都不管——为什么不叫他们把这些东西摆好呢？李妈！李妈！都是些死人，这家里简直离掉我就不行！”</p> <p>摆(bā) 离(lí)</p>	<p>(…中略…〈翠芝は)「まあ、どうしてこの部屋はまだめちゃくちゃとなっているの？あなたはどうぞ何もやってくれないのでしょうか。——どうして使用人たちにきちんと並べさせなかったの？李さん、李さん、憎たらしいったら、この家には私が居ないと何もできない」と大声で言った。)</p> <p>摆：並べて置く。(前掲「16-316-24～16-317-1」に同じ。《摆好 bahāo》は結果補語を附加した用法。) 摆好 = 〈放好〉</p> <p>离: 離れる。(「离掉」は《离脱 lítek》にも使われており、結果補語を附加した用法。)</p> <p>离掉 = 〈离开〉</p>
16-317-24	<p>叔惠看了看表，道：“你们出去吃饭，也该预备预备了吧？”</p> <p>预备(yhúbhé)</p>	<p>(叔惠はちらっと腕時計を見て、「ご夫婦で食事に出かけるには、少しご準備しなければならないでしょう」と言った。)</p> <p>预备: 用意する。(《预备预备 yhúbhéyhúbhé》は動詞の重ね型の用法。)</p> <p>预备预备 = 〈准备准备〉</p>
16-318-8～10	<p>他打算现在就到她那儿去一趟，想着曼楨现在不知道是个什么情形，要是仍旧在外面做事，这时候也该回来了。</p> <p>做事(zūzhí)</p>	<p>(彼は今曼楨のところへ行くつもりであり、曼楨は今どのようなになっているか、もし以前のように外で仕事をしていても、この時間ならもう帰って来ているはずだと思っていた。)</p> <p>做事: 仕事をする。家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。) 做事 = 〈工作〉</p>
16-318-13、14	<p>……这是傍晚时分，天井里正有一个女佣在那里刷马桶，沙啦沙啦刷着。</p> <p>刷(sak)</p>	<p>(…中略…これは夕方頃で、中庭にはある女中がそこでおまるを洗っており、ごしごしと擦って洗っている。)</p> <p>刷: 擦りながら洗う。(「刷着」は《刷勒 saklék》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)</p> <p>刷着 = 〈洗刷着〉</p>
16-318-16～18	<p>这里的住户总不止一家，又有个主妇模样的胖胖的女人在院子里洗衣裳，靠墙搭了一张板桌，她在那板桌上打肥皂。</p> <p>搭(dak) 打(dān)</p>	<p>(こちらの住民は一軒ばかりではなく、ぽっちゃりとした主婦のような婦人もまた庭先で洗濯をしており、一脚の板のテーブルが塀に立てかけてあり、彼女はそのテーブルで石けんを付けている。)</p> <p>搭: 組み立てる。搭 = 〈放〉</p> <p>打: (石けんを) 付ける。(《打肥皂 dānphízháo》: 石けんを付ける。)</p> <p>打肥皂 = 〈擦肥皂〉</p>
16-319-8、9	<p>外面那一道木栅门还没有上闩，……。</p>	<p>(外の木柵門にはまだかんぬきが掛けられていなかった。…中略…)</p>

	上(zhán)	上:掛ける。(《上闫 zhánsèu》:かんぬきが掛ける。)上闫=〈上拴〉
16-320-16、17	翠芝道：“不要来搅糊我。” 搅糊(gháowú)	(翠芝は「混乱させないで下さい」と言った。) 搅糊:混乱する。搅糊=〈搞糊涂〉
16-320-24 ~ 26	翠芝道：“你衬衫就不要换了，她洗倒洗出来了，还没有烫。” 世钧道：“怎么一件也没烫？” 烫(tān)	(翠芝は「シャツは替えないでください。女中は洗うことは洗いましたが、まだアイロンがけをしていません」と言った。世鈞は「どうして一枚もアイロンがけをしていなかったの?」と聞いた。) 烫:アイロンがけをする。烫=〈熨〉
16-321-2~6	翠芝道：“能做事的人不是没有，袁太太上回说荐个人给我，说又能做又麻利，象我们这儿的工资，又没有外快，哪儿养得住她？” 为来为去还是因为钱不够用，她是常常用这话来堵他的。 做事(zūzhí) 养(yhán) 堵(dū)	(翠芝は「家事が上手な人は居ないわけではない。この前、袁夫人がある人を推薦すると言ってくれて、その人は家事ができるばかりでなく、てきぱきしているとも言っていた。でも、私たちのような給与で、臨時収入もないのに、どうしてそのような女中を雇えるはずがあるのか」と言った。結局、やはり原因はお金が足りないということであり、翠芝はいつもこんな話をするので世鈞は塞ぎ込むでいた。) 做事:仕事をする。家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。)做事=〈干活〉〈工作〉 养:養う。(ここでは雇うという意味)。「养得住」は《养得牢 yhiándekláo》にも使われており、可能補語を附加した用法。) 养得住=〈用得起〉 堵:塞ぎ込む。堵=〈唐塞〉
16-322-14~18	钥匙找到之后，把柜门打开，皮包拿出来，再把日常用的那只皮包里的东西挪到那只黑皮包里去，搁不下，又得拣那不要紧的剔出几件，这都需要相当的时间。 搁(gok) 拣(gāe) 剔(tik)	(鍵が見つかった後、戸棚を開けて、革製のバッグを取り出して、そして普段使っているバッグの中身をあの黒のバッグに移したが、しかし入り切らなかったので、今度は重要でないものを幾つか選び出さなければならなかった。それでかなり時間がかかったのだ。) 搁:置く。「搁不下」は《搁勿下 gokvēkhhó》にも使われており、可能補語を附加した用法。) 搁不下=〈放不下〉 拣:選ぶ。(前掲「2-22-25」に同じ。) 拣=〈挑选〉 剔:選び出す。(《剔出 tikcek》は方向補語を附加した用法。)剔出=〈取出〉
16-323-8~10	不知为什么，说起英文来更比平常还要高一个调门完全象唱戏似的捏着假嗓子。 捏(niǎk)	(どういうわけか、英語を話し出すと普段よりもっと甲高い声で、完全に地方劇を唱っているように裏声を作り上げている。) 捏:作り上げる。「捏着」は《捏勒 niǎklék》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)

		捏着＝〈操着〉
16-323-15 ~ 17	要说他这个人呢当然是个好人，不过就是庸庸碌碌，一点特点也没有，也没有多大出息，非但不会赚钱，连翠芝陪嫁的那些钱都贴家用光了，她很替翠芝不平。 贴(tik)	(彼という人は勿論善人ではあるが、しかしとても凡庸な人で、全然個性がなく、大した見込みもない。金儲けができないだけでなく、翠芝の嫁入のお金も家計を補助する為すべて使い果たしてしまったのだ。彼女はかなり翠芝に対しての事を不平を抱いている。) 贴:補助する。(前掲「15-293-1~5」の「贴补」と同じ意味で使われている。「贴家」は《贴屋里 tik <sup>˥</sup> okli <sup>˥</sup> 》にも使われている。)贴家＝〈补贴家〉
16-323-24 ~ 26	但是她是个最要强的人，即使只有这一点不如人，也不肯服输的，恨不得把人家批驳得一个钱不值。 批驳(pibok)	(しかし彼女は勝気なものだから、たとえ人に及ばないのがたった一つでもあるとしても、負けを認めたくはなく、できるものなら相手を一文の価値がなくなるまで論破したかった。) 批驳:論破する;反駁する。批驳＝〈反駁〉
16-324-5、6	不知道被屏妮从那里觅来的。 觅(mik)	(屏妮がどこで捜して見つけてきたかを分らない。) 觅:捜して見つける。(《觅来 mikl <sup>˥</sup> ae)は方向補語を附加した用法。)觅来＝〈找来〉
16-324-25、26	屏妮横了他一眼，道：“你就歇一天不听，行不行?今天这么些个客人正在这儿。” 横(wán) 歇(xik)	(屏妮は彼を睨み付けて、「休みを一日だけにするのを聞いてもらえませんか。今日だってこんなに大勢のお客さんがいらっしゃるのだから」と言った。) 横:睨み付ける。横一眼＝〈瞪一眼〉 歇:休む。(前掲「8-122-26」に同じ。) 歇一天＝〈休息一天〉
16-325-5、6	他急忙定了定神。 定神(dhínzhén)	(彼は急いで気を落ち着かせた。) 定神:気を落ち着かせる。(前掲「14-257-2~6」に同じ。「定了定神」は《定勒定神 dhínle kdhínzhén》にも使われており、動詞の過去形の重ね型の用法。)定神＝〈镇静〉
16-325-21、22	翠芝道：“我晓得你不喜欢她。反正是女人你全不喜欢。因为你觉得自己觉得女人不喜欢你。” 晓得(xiāodek)	(翠芝は「彼女のことが好きではないことを知っているわ。どうせ女は全く好きになれないのだから。それは、あなた自身が女に好かれていないと思っているのでしょから」と言った。) 晓得:知る。(前掲「7-101-25」に同じ。) 晓得＝〈知道〉
16-326-9、10	翠芝道：“你要不是生气才怪呢。你不要赖了。……” 赖(lá)	(翠芝は「あなたが怒っていないのは不思議な位だわ。否定しないでね。…中略…」) 赖:否定する;言い逃れる。赖＝〈抵赖〉
16-326-12	到家了。世钧在那儿付车费，翠芝便去掀铃。 掀(qīn)	(家に着いた。世鈞はそこで車賃を払い、翠芝はすぐチャイムを押しに行った。) 掀:押す。(前掲「4-55-12」に同じ。《掀铃

		qīnlín):チャイムを押す。) 撤铃=〈按铃〉
16-326-17、18	翠芝道：“我老不放心李妈，她到今天还是不会用煤气灶。我就怕她没 <u>关紧</u> 。” 关紧 (guànjǐn)	(翠芝は「私はどうしても李ばあやが心配だわ。彼女は今になってもガスコンロが使えないのだから。彼女はガス栓をしっかりと閉めていないのではとと思ってね。」と言った。) 关紧:しっかりと閉める。关紧=〈关好〉
16-326-23 ~ 25	翠芝觉得非常无味，她略 <u>顿</u> 了一顿，便淡淡地道：“那你去看看吧，就手把狗带去 <u>放放</u> ，李妈一定忘了，你听它直在那儿叫。” 顿(dēn) 放(fān)	(翠芝はとても面白くないと思い、僅かに滞ったあと、「じゃ、あなた、ちょっと見に行行って来てくれる？ついでに犬のリードを外してあげてね。李ばあやはきっと忘れてるわ。ほら、わんちゃんはその所でずっと鳴いているに違いないことを。」と淡々と言った。) 顿:止める。(《顿了一顿 dēnlèkyīkdēn》は動詞の過去形の重ね型の用法。) 顿了一顿=〈停顿了一下〉 放:リードを外してあげる。(《放放 fānfān》は動詞の重ね型の用法。) 放放=〈溜溜〉
16-327-4~6	世钧 <u>弯</u> 到厨房里去看了一看，看见煤气灶上的开关全关得好好的，想着也许是管子有点漏，明天得打个电话给煤气公司。 弯(wàe)	(世鈞はついでにちょっと台所へ見に寄ったが、ガスコンロのスイッチはきちんと止めてあった。もしかするとガスチューブから少し漏れているかもしれない。明日ガス会社に電話を掛けなければならないと思っていた。) 弯:立ち寄る。(前掲「16-327-4~6」に同じ。《弯到 wàedāo》は結果補語を附加した用法。) 弯到=〈拐到〉
16-327-13、14	也是因为自己想法子 <u>排遣</u> ，那年夏天他差不多天天到爱咪家去打网球。 排遣(bháqī)	(自分が気晴らしをする為、彼はあの年の夏、殆んど毎日エミの家へテニスをしに行行った。) 排遣:気晴らしをする。排遣=〈解闷〉
16-328-25~ 16-329-1	我听她说这些话，我真觉得非常安慰，因为——你 <u>走开</u> 太久了我就有点恐惧起来了，无缘无故的。 走开(zōekàe)	(彼女の話の聞くと本当にとても慰められると思った。それは——あなたは長い間行ってしまったので、少し怖くなって来て、わけも分からないほどなのだ。) 走开:離れる。走开=〈离开〉
17 章-330 頁 -1、2 行	翠芝道：“你 <u>晓得</u> 现在是什么时候了——都快两点了!” 晓得(xiāodek)	(翠芝は「いま何時だかを知っていますか？——もうすぐ二時になります」と言った。) 晓得:知る。(前掲「7-101-25」に同じ。) 晓得=〈知道〉
17-330-12 ~ 14	翠芝道：“肚子有点不舒服，不知道是不是螃蟹 <u>吃坏</u> 了。刚才你吃了没有？今天袁家那螃蟹好象不大新鲜。” 吃坏(cikhhá)	(翠芝は「少しお腹の調子が悪い。蟹を食べて当たったせいでしょうか。さっき、あなたは食べましたか？今日袁家で出された蟹はあまり新鮮ではなかったようだ」と言った。) 吃坏:食当りする。(結果補語を附加した用

		法。)吃坏=〈吃坏肚子〉
17-330-17、18	世钧忽道：“不是下雨。一定是自来水龙头没 <u>关紧</u> 。” 关(guàe)	(世钧は急に「雨は降っていません。きっと水道の蛇口をきちんと閉めていないからです。」と言った。) 关:閉める。(前掲「16-326-17、18」に同じ。《关紧 guàejīn》は結果補語を附加した用法。) 关紧=〈拧紧〉
17-330-19 ~ 22	她又沉默了一会，终于忍无可忍地说：“不行——你起来把它 <u>关紧</u> 好吧？”世钧一听也不言语，从床上爬起来，跑到浴室里去，开了灯观察了，便道：“哪儿是龙头没 <u>关紧</u> ？是晾的衣裳在那儿滴水！” 关紧(guàejīn) 爬(bhó) 晾(lián)	(彼女はまた暫く黙り、とうとうこれ以上我慢できず、「いけません——あなたは起きてそれをきちんと止めてくれませんか。」と言った。世钧はそれを聞いて何も言わず、ベッドから起き上がって、浴室へ行き、電気をつけてよく見て、「どうして蛇口をきちんと閉めなかったの？干してある服のところに水が滴っているよ」と言った。) 关:閉める。(前掲「16-326-17、18」に同じ。《关一关紧 guàeyikguàejīn》は動詞の重ね型の用法。) 关一关紧=〈拧一拧紧〉 爬:起きる。(《爬起来 bhóqiláe》は方向補語を附加した用法。) 爬起来=〈起来〉 晾:干す。晾=〈晒〉
17-330-26	世钧道：“肚子疼。我也吃坏了。” 吃坏(cikhhá)	(世钧は「お腹が痛い。僕も食当りした」と言った。) 吃坏:食当りする。(前掲「17-330-12~14」に同じ。) 吃坏=〈吃坏肚子〉
17-331-5	世钧告诉他大概是螃蟹吃坏了。 吃坏(cikhhá)	(世钧は彼に多分蟹のせいで食当りしたと教えた。) 吃坏:食当りする。(前掲「17-330-12~14」に同じ。) 吃坏==〈吃坏肚子〉
17-331-15、16	至于他，他这两天的心情是这样激动，简直保不定自己会做出什么样的事来。 保(bāo)	(彼については、ここ数日、気持ちがとても高ぶっており、自分がどんなことをし出すかをまったく保証できない位だ。) 保:保証する。(「保不定」は《保勿定 bāovèkdín》にも使われており、可能補語を附加した用法。) 保不定=〈保证不了〉
17-331-18	既然晓得是这样，那么又何必多此一举呢？ 晓得(xiāodek) 多此一举(dùcīyīkjū)	(こんなことを知っていた以上、余計なお節介をやらなくても良いじゃないの？) 晓得:知る。(前掲「7-101-25」に同じ。) 晓得=〈知道〉 多此一举:余計な世話をする。
17-331-22、23	叔惠见他好象提起曼桢就有点感触似的，就岔开来说别的。 岔(cā)	(叔惠は彼が曼桢のことを話し出すと少し感慨を催されているようにみえたので、話題をそらして他の話をするようにした。) 岔:そらす。(《岔开来 còkàeláe》は方向補語を

		附加した用法。)岔开来 = 〈移开来〉
17-332-2、3	……尤其是他，因为从前正在实习期间就半途而废，自己一直在那儿懊悔着。 懊悔(àohuē)	(…中略…特に彼というのは、以前まだ実習期間中であるにも関わらず、途中でやめてしまい、このことに対してずっと悔やんでいる。)懊悔:悔やむ;後悔する。(前掲「11-181-17、18」に同じ。「懊悔着」は《懊悔勒 àohuēlèk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)懊悔着 = 〈后悔着〉
17-333-20、21	翠芝又道：“你想吃什么，我叫他们给你预备。” 预备(yhúbhé)	(翠芝はまた「何が食べたいの？女中たちに用意させます」と言った。)预备:用意する。(前掲「11-191-6～8」に同じ。)预备 = 〈准备〉
17-337-9 ~ 「11	世钧一眼看见了，就连忙踏着拖鞋下床来拾取，但是翠芝一周到，已经弯腰替他拾了起来。 踏(dhǎk) 拾(xhik)	(世鈞は一目するとすぐに見つけたので、急いでスリッパを履いてベッドから降りて拾おうとしたが、翠芝は気を利かせて、すでに腰を屈めて世鈞に拾ってあげていた。)踏:履く。「踏着」は《踏勒 dhǎklèk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)踏着 = 〈拖着〉拾:拾う。(《拾起来 xhikqīlái》は方向補語を附加した用法。)拾起来 = 〈拣起来〉
17-337-20、21	我想你对这些事情向来马马虎虎，冷了也不会想到加衣裳。 加(kà)	(あなたはこのような事に対してこれまでずっといい加減なもので、寒くなっても重ね着しようなどとは思いつかないでしょう。)加:加える。(《加衣裳 kàyizhán》:重ね着する。)加衣裳 = 〈添衣服〉
17-337-22、23	她又捏着喉咙，尖声尖气的学着那种流行的“话剧腔”往下念： 捏(niǎk)	(彼女はまた喉をつまんで、甲高い声で、あの流行っている「話劇の口調」を真似て読み続けた。)捏:つまむ。「捏着」は《捏勒 niǎklèk》にも使われており、動態助詞を附加した用法。)捏着 = 〈按着〉
17-337-27 ~ 17-338-2	……(翠芝)说着，又往下念：“‘昨天我到叔惠家里去了一趟，我也知道叔惠不会在家的，我就是想去看看他的父亲母亲，因为你一直跟他们住在一起的，我很希望他们会讲起你。’”。 讲(gān)	(…中略…(翠芝は)話をしながら読み続けた。「昨日私は叔恵の家に行くと、彼がいない事を知り、私は両親に会いに行きたかった。というのは、あなたは彼らと一緒にずっと住んでおり、彼らの方からあなたのことを持ち出して盛りたかったからです。’)讲:話す。(前掲「14-271-26～14-272-1」に同じ。《讲起 gānqī》は方向補語を付加した用法。)讲起 = 〈说起〉
17-338-19、20	听她那口气，可以知道她已经不预备再吵下去了。	(彼女の口ぶりを聞けば、もうこれ以上言い争い)たくないことが分かる。)



	吵(cāo)	ここでの《预备 yǔbèi》は助動詞の用法。 吵: 言い争う; 喧嘩する。(《吵下去 cāohóuqī》は方向補語を附加した用法。) 吵下去 = 〈争吵下去〉
17-339-15、16	后来又听见翠芝跟他说话, 他 <u>理也不理</u> , 这更是从来没有过的事。 理(lǐ)	(その後、翠芝が彼に話をかけたが、彼は全然相手にしなかったことが聞こえてきた。これは今まで一度もなかった事だ。) 理: 相手にする。(「理也不理」は《理也勿理 lǐhǎwèklǐ》にも使われている。) (理也不理 = 〈一点也不理睬〉)
17-339-17、18	李妈虽然 <u>做起事来</u> 有点老迈龙钟, <u>听壁脚</u> 的本领却不输于人。 做事(zūshì) 听(tīn)	(李ばあやは用事をする時は少しよぼよぼに老いぼれているが、悪口を聞く技は誰にも負けない。) 做事: 仕事をする。家事などをする。(前掲「2-14-2」に同じ。《做起事来 zūqǐzhìláe》は方向補語を附加した用法。) 做事 = 〈做家务〉 听: 聞く。(《听壁脚 tīnbìjiǎo》: 悪口を聞く。) 听壁脚 = 〈听诽谤的话〉
17-339-20 ~ 23	……所以等客人走了, 少奶奶回来了, 就另外 <u>找岔子</u> 跟她 <u>怄气</u> , 这种事情也是有的。李妈忍不住, 就去探翠芝的口气, 翠芝果然什么都不知道, 就只 <u>晓得</u> 大少奶奶今天来过。 找(zhǎo) 怄气(òuqì) 晓得(xiǎodek)	(…中略…その為、客が帰り、若奥さんが戻って来たら、他の失敗を見つけて李ばあやに腹をたてたりする。このようなことがあるので、李ばあやは我慢できず、翠芝の口裏を探ってみたところ、翠芝は果たして思った通りで何も知らず、ただ、今日義兄の奥さんが来たことだけを知っているようだ。) 找: 見つける。(「找岔子」は《寻岔子 xúncàozǐ》にも使われており、失敗や間違い探しという意味。) 找岔子 = 〈找缺点〉 怄气: 腹を立てる。むしゃくしゃする。(前掲「3-35-10」に同じ。) 怄气 = 〈赌气〉 晓得: 知る。(前掲「7-101-25」に同じ。) 晓得 = 〈知道〉
17-340-24 ~ 26	他这一向书倒是看得不少。不过他总觉得, 从理论到实践这一关要是 <u>打不通</u> , 一切都是白费。 打(dǎ)	(彼は平素から本をよく読んでいるが、しかし彼は理論を实践へ結び付ける関門を通らなければすべて無駄だといつも思っている。) 打: 突破する。(「打不通」は《打勿通 dǎwùtōng》にも使われており、可能補語を附加した用法。) 打不通 = 〈攻不破〉
17-341-14、15	他心里 <u>憋</u> 了许多话, 很想和叔惠商量商量。 憋(bī)	(彼の心には沢山の言葉が抑えられており、叔惠とよく相談してみたかった。) 憋: 抑える; 我慢する。(前掲「11-188-4、5」に同じ。) 憋 = 〈忍耐〉
17-341-23 ~	世钧是来惯了的, 他在房门口望	(世鈞はよく訪ねに来たので、部屋の戸口から

26	了望，看见许太太歪在床上睡中觉，…… 睡(zhóu)	少し眺め、許夫人が体を曲げてベッドの上で昼寝をしているのを目にした。 睡:寝る。「睡中觉」は《打中交 dǎnzòngāo》にも使われている。)睡中觉 = 〈睡午觉〉
17-344-10 ~ 12	她穿着青底小白格子的衣服，头发梳得很伏贴，但还是有一点毛毛的； 梳(sì)	(彼女は青地に小さい白チェックの服を着て、髪の毛は具合よく梳いているが、少しうぶ毛が出ている。 梳:髪を梳く。(前掲「14-274-21~23」に同じ。「梳得很伏贴」は《梳得老伏贴 sīdekǎovok tik》にも使われており、様態補語を附加した用法。)梳得很伏贴 = 〈梳得正合适〉
17-345-15、16	曼桢也笑了，道：“我倒也受了他的影响，我觉得在现在这个时代里，是真得好好地振作起来做人了。” 做人(zūnín)	(曼桢も笑って、「私も彼の影響を受けていたので、今のこの時代には、本当にしっかり元気を奮い起こして身を持さなければならぬと思います」と言った。 做人:身を持する。
17-345-19 ~ 23	还是她自己提起来说：“听见说祝鸿才也死了。……等到解放后，象他们那些投机囤积的自然不行了，他又想到台湾去，坐了个帆船，听说一船几十个人，船翻了全淹死了。” 听见(tīnji) 投机囤积(dhóejìdhénjik)	(やはり彼女が自分で言い出して、「聞くところによれば、祝鴻才も死んだ。…中略…解放後、彼らのように買い占めて投機をするような人は当然だめになったので、彼は今度は台湾に行こうと帆船に乗った。同じ船には何十人も乗っていたが、船が転覆して全員溺れ死んだとのことです。) 听见:耳にする。(「听见说」は《听见讲 tīnjīgān》にも使われている。) 听见说 = 〈听说〉
17-346-8、9	曼桢突然把头别了过去。她一定是掉下眼泪来了。 别(bhik)	(曼桢は突然頭の向きを変えた。彼女はきっと涙が流れてきたのだろう。) 别:(方向を)変える。(《别过去 bhīkgūqī》は方向補語を付加した用法。)别过去 = 〈转过去〉
17-347-21、22	他从来没做过这样拆滥污的事，约了人家来吃饭，自己临时又不来。 拆滥污(cēkláewū)	(彼は一度もこのようないい加減なことをしなかった。人様を食事に来られるように誘っていたが、自分がその時になって出られなくなったなんて。) 拆滥污:いい加減なことをする。 拆滥污 = 〈不负责任〉
17-347-21 ~ 22	翠芝道：“我憋了这些年了，今天我一定要跟你说明白了——”。 憋(bik)	(翠芝は「ここ数年来ずっと我慢してきたので、今日是非ともあなたにはっきり説明したい」と言った。) 憋:抑える;我慢する。(前掲「11-188-4、5」に同じ。)憋 = 〈忍耐〉
17-348-18、19	这时候李妈却在外面楼梯上一路喊下来：“小少爷呢？来洗澡呀！”	(この時、李ばあやが外の階段から下へ降りるまで大声で、「下のお坊ちゃんは何？入浴しなさい

	<p>回回都要人家<u>三请四请</u>。”  喊(hāe)  三请四请(sàeqínsīqín)</p>	<p>い。帰る度に何回もお願いしなければならない」と言った。)。  喊:大声で呼ぶ。(《喊下来 hāehhóláe》は方向補語を附加した用法。)喊下来=〈叫喊下来〉  三请四请:何回もお願いする。  三请四请=〈几番请求〉</p>
17-349-17-18	<p>曼桢笑道:“你又来了!你决不会考不上的。再说,就是考不上,在新社会里,象你这样的人还怕没有出路么?”  来(láe)</p>	<p>(曼桢は笑って、「また言っている。あなたは決して受からないはずがない。その上、たとえ受からなくても、新社会では、あなたのような人に活路がないとでも思っているの?」と言った。)。  来:話す。(《又来了 yhióeláelèk》:また同じ事を話す。)又来了=〈又说了〉</p>
17-353-8、9	<p>世钧斜靠着桌子角站着,把手里的一支香烟<u>撇灭</u>了。  撇灭(qīnmīk)</p>	<p>(世鈞は立ったままテーブルの角の方へ斜めに寄りかかっていると、手にあるタバコの火をもみ消した。)。  撇灭:(タバコの火をもみ消す。撇灭=〈掐灭〉)</p>
17-353-3~5	<p>她哑着喉咙说:“我知道,你现在简直不拿我当人了。……”翠芝道:“那天她不是跑来造了我许多谣言!”  哑(ō)  造(zháo)</p>	<p>(彼女はかすれた声で、「わかってるわ。あなたが今私を全く人とは見做していないことを。」と言った。…中略…翠芝は「あの日、彼女はこちらに来ると、やたらとデマをでっち上げたのではなかったの」と言った。)。  哑:(声が)かすれる。「哑着喉咙」は《哑勒喉咙 òlèkhhóelón》にも使われており、「哑着」は動態助詞を附加した用法)。  哑着=〈嘶哑着〉  造:でっち上げる。(《造谣言 zháoyáo yí》:デマをでっち上げる。)造谣言=〈捏造谣言〉</p>
17-353-14、15	<p>所以心里转来转去半天,这话始终也没说出口。  转来转去(zēuláezéuqī)</p>	<p>(その為、長いこと心の中をぐるぐる回っていたが、その言葉をとうとう口に出せなかった。)。  转来转去:ぐるぐる回る。  转来转去=〈反复思量〉</p>
17-353-22、23	<p>翠芝<u>别</u>过头来,抬起一只手来<u>揩</u>眼睛,一方面却嗤嗤地笑起来了。  别(bhīk)  揩(kà)</p>	<p>(翠芝は頭の向きを変えて、上げた方手で目を拭いていたが、一方ではくすつと笑い出した。)。  别:(方向を)変える。(前掲「10-168-11、12」に同じ。《别过头来 bhīkgūdhóeláe》は方向補語を附加した用法。)别过头来=〈转过头来〉  揩:拭く。《揩眼睛 kàgháejìn》:目または涙を拭く。)揩眼睛=〈擦眼睛〉</p>
17-354-2~5	<p>其实他自己又何尝不是同样的情形,同时在旧社会里糊里糊涂做了半辈子的人,<u>攒</u>不下的包袱不知有多少,这回到东北去要是去得成,对于他正是一个严重的考</p>	<p>(実は彼自身も同じ状況でないことなんてあるものか。それと同時に旧社会において愚かにも前半生を送った為、下ろせない心の重荷がどれ位あるかが分からないほどだ。今回東北へ行くことができたなら、彼にとっては正に厳しい試練</p>

	<p>验。          擱(ghuáe)</p>	<p>だ。)                   擱: 放る; 投げる。(前掲「4-66-22」に同じ。「擱不下」は《擱勿下 ghuáevěkhhó》にも使われており、可能補語を付加した用法。)                   擱不下 = 〈卸不下〉</p>
17-355-15、16	<p>……他并不认识她，就又别过头去了。          别(bhik)</p>	<p>(彼は彼女のことを全く知らないで、また頭の向きを変えた。)                   别: (方向を) 変える。(《别过头去 bhikgūdhóeqī》は方向補語を付加した用法。) 别过头去 = 〈转过头去〉</p>
18 章-356 页-10~12	<p>慕瑾道：“……我也是因为受了那次的打击，对于工作觉得非常灰心，就东飘西荡的，一直到今天解放了，我觉得实在没有理由不振作起来了，因为现在招考医务人员到东北来，所以我也参加了。”          东飘西荡(dònpiaoxìdánh)</p>	<p>(慕瑾は「…中略…僕もあの時のショックで、仕事に対してとても消極的となり、あっちへこっちへと彷徨し、今日なって解放された。私は、元気を奮い起こさない理由はないと思ったので、現在、東北へ行く医療事務を募集しているので、私も参加することにした。」と言った。)                   东飘西荡: 彷徨う。东飘西荡 = 〈到处彷徨〉</p>
18-357-、20	<p>世钧偶尔别过头去一看，他旁边的一个座位却是空的。          别(bhik)</p>	<p>(世鈞はたまたま頭の向きを変えてちらっと見ると、彼の隣の席はすでに空となっていた。)                   别: (方向を) 変える。(前掲「10-168-11、12」に同じ。《别过头去 bhikgūdhóeqī》は方向補語を附加した用法。) 别过头去 = 〈转过头去〉</p>

【使用テキスト】

張愛玲『十八春』1986年1月第1版(江蘇文藝出版社)

張愛玲『半生縁』2001年4月1日(皇冠文化出版有限公司・典藏初版一刷)

【参考文献】

〈中国文〉

丁迪蒙 著、2015年1月第2版『学説上海話』(上海科技文献出版社)

錢乃栄 編著、2008年4月第5版『上海話大詞典』(上海辞書出版社)

阮恒輝 著、2014年8月『上海話教程』(上海辞書出版社)

余斌 著、2001年12月第2版『張愛玲伝』(広西師範大学出版社)

張惠苑 編集、2014年1月『張愛玲年譜』(天津人民出版社)

〈日本文〉

榎本英雄／范晓 著、1996年4月5日第6刷『エクスプレス上海語』(白水社)

宮田一郎 編著、昭和63年9月10日『上海語常用同音字典』(光生館)